「もりのこプロジェクト　～　全方位アウトドア！　地域財を生かし切る！」

ダイジェスト版

最近、「もりのこプロジェクト」って何ですか？という問い合わせ等が多くなっています。できるだけわかりやすく、読む負担を少なく理解していただくため、ダイジェスト版を作成しましたのでご覧下さい。

1　はじめに

本校は「全方位アウトドア自然基地」をスローガンとする大子町にある県立特別支援学校です。豊かな地域財や風土等を生かした特色ある教育実践を強みとし、地域と共にある学校づくりを推進しています。

「もりのこプロジェクト」は、コロナ渦の閉塞感から脱却し、大子の豊かな自然環境や特産物、多彩な地域人財等を学習に活かした、体験的で活動的、実際的な教育ができないだろうかという発想から始まりました。コミュニティスクール制度の導入を機に、校外の多方面の方々から情報等を収集、協議しながら出てきたキーワードが、「地域資源の活用」「リアルの重視」「学習効果の向上」でした。

これらのことから、もりのこプロジェクトは、「自然体験活動と教科学習の効果的な関連付けによる学びやすく分かりやすい教育の実現」をゴールにする取組として、R5からスタートし、2年目になりました。学習題材の提供や講師協力は、コミュニティスクール（学校運営協議会）の各委員が橋渡しをして下さり、教職員だけではできない取組みが実現しています。

2　取組み例





(1)田んぼのがっこう

近隣農家の協力で、田植えから収穫まで一連の体験学習を行っています。水をはった田んぼに初めて入った児童は歓声を上げ、苗を大事に分け合いながら、稲の成長を楽しみに田植えをしていました。

生活科や図工の学習で生育観察を継続しました。田んぼに向かう道すがら、地域の方々から沢山声がかかり、嬉しそうに手を振り合う光景が日常になりました。

また、「小田がけ」って何？という教員が多い中、夏休みに収穫方法等の実地研修の協力も頂いています。

児童も教員も、各教科の学習成果はもちろんのこと、地域における共生風土の高まりを様々な学習活動の中で実感しています。

(2)川のがっこう

近隣のキャンプ場内を流れる久慈川で、実際に流水に入る体験活動を行っています。近隣の上小川小学校も参加し、共通の場で楽しめる活動をとおして自然で良好な交流機会になっています。川辺での水遊びに留まらず、実際の流水に身を投じ、専門家による水難事故防止法の体験を行います。関連する教科の事前学習で調べた学習課題を確かめ、事後学習で成果発表をするなど、自然体験活動をコアとした教科等横断的な授業実践を計画し実践しています。



(3)楮(こうぞ)のがっこう

オリンピックで採用された美濃和紙の原料は100%大子町特産の楮(こうぞ)です。校内に楮を植樹し、栽培から刈取り、和紙の原料とする加工まで、年間継続で取り組んでいます。栽培では芽かき作業に根気強く取り組み、夏休み明け初日に自分の背丈以上に伸びた楮の木を見た生徒からは感嘆の声が上がりました。秋には、楮職人の指導のもと、近隣の南中学校の生徒と交流兼協働作業に取り組みます。畑で見かける未知の草木が、有名な地域財だという発見をとおして、地域理解と郷土愛が高まります。「将来この財産を引き継ぎたいという人への投資のつもりで協力したい」という楮職人の言葉をうけ、持続可能な地域社会を担う人財を育てる本プロジェクトの教育的意義を全職員が実感しています。





3　現在位置と今後

「もりのこプロジェクト」は2年目になりました。学校運営協議会での熟議や提案等をとおして、地域資源の提供、人財の助力等を頂きながら、大子の地の利を生かした魅力ある教育実践が実現しています。ありがたいことに、保護者はもとより多方面から、このプロジェクトの取組みに対する高評価をいただいています。今後は、プロジェクトの趣旨は継承しつつ、より地域課題の共有、地元関係者等への還元・貢献を意識し、地域の皆様と共に知恵を絞り、汗をかき、持続可能で選ばれる地域共生型の特別支援学校を目指して、更に様々な取組を推進していきます。